

発表題目：日本語の「〇〇中」と対応する英語の「前置詞+名詞句」表現 ～日英パラレルコーパスを用いた分析～

本研究の目的は日本語の「〇〇中」を出発点に、日本語において「～(を)している(最中)」という動作性のある意味を表す場合に、英語では動詞的な語による表現と名詞的な語による表現の可能性があると翻訳テキストからなる日英パラレルコーパスから得られたデータを通して分析し、日本語の「〇〇中」表現と英語の be 動詞の補語位置に現れる「前置詞+名詞句」表現が対応する例を考察することである。

日本語の接尾辞「-中」は、動詞的な性質を持つ語と結びつき「～(を)している(最中)」という意味を表す(例(1))。佐伯(2005)はこのような「-中」の先行要素を影山(1993)で述べられた動名詞と説明する。動名詞は単独で主語になれる点で名詞らしい特徴を持ち、「する」と結合して動詞化できる点で動詞らしい特徴を持つ。一方、英語で be 動詞の補語位置の「前置詞+名詞句」表現が「～(を)している(最中)」という意味を表す場合がある(例(2),(3))。なお、本研究では「今週中」「世界中」等の「時間範囲+中」「空間範囲+中」表現は分析対象としない。

研究方法として、日本語の「〇〇中」と対応し得る英語表現を集めるため、日英パラレルコーパスから「〇〇中」を検索し、同じ意味を表すと考えられる英語表現を対応する英語文中から手作業で収集し分類した。

「〇〇中」に対応する英語表現は主に i) (be 動詞+)前置詞+名詞句 ii)(be 動詞+)動詞現在進行形 iii) 対応箇所がないと判断、に大別された。i)の(be 動詞+)前置詞+名詞句を前置詞(in, on, at, under)ごとに考察し、さらに上記(2)のように名詞句が「〇〇中」の先行要素と同じく項構造を持ち同根の動詞が存在する名詞であるものと(3)のように、項構造を持たず同根の動詞のないものに分類した。

- (1) 食事中、ドライブ中、話し中
- (2) at work(工作中)、on strike(ストライキ中)、
under consideration(検討中)、in talks(交渉中)
- (3) at anchor(停泊中)、in the air(飛行中)、on duty(勤務中)

参考文献

- 影山太郎(1993) 『文法と語形成』 ひつじ書房
佐伯亮則(2005) 「接尾辞「中」に先行する動名詞の時間的特徴」『筑波日本語研究』 第十号